

広報愛読者の声



塚原麻衣子さん
 まちの情報収集のために広報古河を愛読している塚原さん。キラキラしている姿が目を引き成人式や卒業式を扱う紙面には見入ってしまうと言います。毎号楽しみにしているのは「こがPhotoクラブ私のオススメ!!」のコーナーです。今オススメの店舗情報が載っていて面白いと話してくれました。

「2018年のリニューアルから、デザイン、レイアウトなどが一気に変わり、読みたいと思える広報紙になったので、これからもいろいろな世代の人に楽しんでもらえるような紙面を作り続けてほしい」と思いを寄せていました。



新井明美さん
 新井さんは4年前に古河市へ転入して以来、広報古河を愛読していると言っています。特に地場産業について興味があり「古河のモノづくり力」のコーナーに掲載される写真はどれも迫力があってお気に入り。

また、2月号「キラリ古河ビト」のコーナーで掲載された常陸牛の記事は印象的で、古河の魅力がまた一つ知ることができたと言います。また、市出身のイラストレーターである中里氏の表紙イラストも繊細でとても好きだと、顔をほころばせていました。



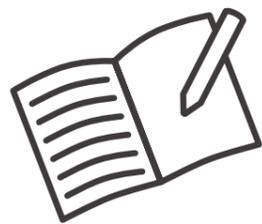
部員数21人で毎月「古河中等瓦版」という学校新聞を発行しています。

古河中等教育学校 文藝部員一同

お世話になったシティブロモーション課の皆さんにお礼申し上げますとともに、拙い文章ですが読んでいただけると嬉しいです。

広報古河とわたし

広報古河と古河中等教育学校
 文藝部の共同企画



広報古河第1号に掲載されたママさんバレーチーム「カトレア」

「第1号の取材を受けたときは、集合写真が載って恥ずかしかった」と当時を振り返る蛭田さん。17年経った現在でも、活動場所や練習の頻度など、変わらずにバレーボールを続けています。また、新しくチームに入った人も多く、



広報古河第1号、広報10周年号の表紙を飾った熊谷未彩さん

第1号の表紙を飾った時は、まだ0歳だった熊谷さん。後から自分が掲載された号を見せてもらったときは「すぐくちっちゃいなー、自分」と思ったそうです。10周年記念の第120号では、プレートに「祝古河市



広報古河第1号が発行された時に成人した遠藤一樹さん

毎月広報紙を読んでいる遠藤さんは、24歳まで神奈川県で理容師の修行をしたあと古河に戻り、叔父さんの後を継いで理髪業を営んでいます。さまざまな職業の人や遠方からのお客様がお店を訪れてくれるので、毎月広報紙を読ん

200号を記念して、毎月学校新聞を発行している古河中等教育学校文藝部の皆さんと協力して作成した紙面です。これまでに広報古河に登場した人物や愛読者を生徒たちが取材し、原稿を作成しました。

「特集」コレがいい!

リニューアル後の広報古河(2018年1月号〜2022年3月号)に掲載された特集の中で、文藝部のオススメを紹介します。

2021年5月号



有名な漫画の作者が古河市出身なのは知っていたけれど、いろんな職業で活躍している人たちが古河市出身だと知ってとても驚きました。また、イラストの表紙にも目を引かれました。

2021年7月号



古河市で採れるさまざまな果物が登場し、見ていて思わず食べたくなる内容です。また、写真の使い方がうまく、フルーツ好きにはたまらない特集になっていました。

編集後記

今回、いつも読んでいる広報古河200号という記念号に「記者」として参加しました。他の人にはできない経験をすることができ、とてもうれしかったです。最初は古河市の広報紙の取材をしている実感がありませんでしたが、市の職員さんと一緒に取材先に向い、やっと実感が湧きました。それと同時に、久しぶりの外部取材に対する緊張が押し寄せてきました。しかし、取材に協力してくれた皆さんがとても優しくかったので、リラックスして取材をすることができ、改めて市民の皆さんの人柄の良さを実感しました。

中には娘と一緒に活動している人もいます。現在は、コロナ禍で試合がなくなったり、練習時間がうまく取れなかったりと苦労することも多く、活動も少し緩くなってしまったそうです。蛭田さんは「体がどこまでついていくか分からないけれど、ぎりぎりまで頑張りたい」。佐藤さんは「一緒に頑張れる仲間が欲しい」と笑顔で語ってくれました。

「The 10th Anniversary」と書かれた大きなケーキと一緒に表紙を飾ってくれました。その時の記憶は曖昧ですが、緊張したと言います。その時に「また10年後もお願いしますと言われたのですが、3年も早くお話がきてびっくりしました」と今回の取材に驚いた様子でした。「また載せてもらえる機会があったらお願いします」と笑顔で締めくくってくれました。

で地元の話題を知ることが欠かせないと話します。遠藤さんは古河市の魅力について、他県との県境にあることを挙げました。しかし、他県へ簡単に移動できることで、若者が流出することを心配しています。古河市にも大型ショッピングモールや映画館など、若者が楽しめる施設があれば人が集まり、まち全体が活気づくのではないかと笑顔で語ってくれました。